

Discovery

December 2015 vol. 08

HIYOSHI

株式会社日吉

info@hiyoshi-es.co.jp

www.hiyoshi-es.co.jp/



社内報「hot info」は「Discovery」に名称を変えリニューアルしました。



「HIDAふるさと名物応援事業」びわ湖環境ビジネスメッセにて滋賀県知事面談

本社：〒523-8555 滋賀県近江八幡市北之庄町908 TEL(0748)32-5111(代) FAX(0748)32-3339 / 東京支店：〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7 TEL(03)5772-6073(代)

海外事業 ベトナム・インド・中国



国際社会の大きなテーマでもあるアジアの水問題。産業排水の適正化をはじめ、安全な飲料水にアクセスできる人口を増やすことなど、日吉は、水に関わる問題の解決に向けた技術の開発、提供を通じて世界への貢献を果たしたいと考えています。

環境省アジア水環境改善モデル事業

ベトナム ベトナムで日本の技術力をPR

11月18日、ベトナム国ダナン市にて「PVAゲルによる工場排水処理に関する技術セミナー及び現地説明会」を開催しました。本セミナー・説明会は、PVAゲル（株式会社クラレアクア）や遠隔監視O&M^{#1}モデルのPRを目的に行われ、参加した現地行政機関や水産加工業者、日系排水処理メーカーなど約50名が参加し、日本の高い環境技術に大変関心が寄せられました。

2年目を迎えた今年は、本事業の目的であるビジネスモデル構築に向け、8月にPVAゲル実証モデル装置を協力水産加工工場排水処理施設に併設し、水産加工排水を試験水として実証試験を実施しました。今回その試験データや平成26年度FS^{#2}調査結果などを用いてPVAゲルの処理性能のPRを行いました。

また、実際に実証モデル装置を見学してPVAゲル処理システムの実体や遠隔監視O&Mモデルの紹介も行いました。

ベトナムでの排水処理施設O&M事業展開を目指す日吉は、本実証試験に遠隔監視システムを導入し、ベトナムという遠隔地においても日本国内でリアルなモニタリングデータ及び画像を監視でき、その結果を現地にフィードバックすることにより、ベトナムなど発展途上国の水処理技術の向上による水質改善に貢献するとともに、O&Mビジネスの展開の可能性が高まったと考えています。

今後、出席者からの声やアンケート結果をもとに本事業の目的である現地に対応したビジネスモデルを構築し、ベトナムも含めた発展途上国でのビジネス展開を図ってまいります。



注1：運転管理・保守点検（Operation and Maintenance） 注2：実行可能性調査（Feasibility study）

インド 琵琶湖モデルをインドへ



日吉は滋賀県、京都大学、株式会社堀場アドバンステクノの共同体で経済産業省補助事業である「ふるさと名物応援事業」に採択されました。

今回、日吉らが提案した内容は、琵琶湖の水質悪化を契機に1970年代から滋賀県で本格化した産官民学による水環境対策と経済発展の両立の経験（「琵琶湖モデル」）、実際の滋賀県内外の水環境保全の取り組みや、それにかかわる事業を紹介し、それらのインドへの展開や市場開拓のアイデアの提案をってもらうことを目的としました。

10月19日から23日までの5日間事業が実施され、インドから9人の海外人材（政府関係者、大学教員、民間会社役員ら）が招へいされました。びわ湖環境ビジネスメッセや企業を訪問し、日本の水ビジネスの海外展開などについて意見交換を行いました。参加者からは「琵琶湖モデル」をインドの汚染河川に適用し、汚染浄化に結び付けたいとの声もありました。今回の事業をきっかけにインドの環境改善と日吉インドアの事業展開へとつながることを期待しています。

中国

滋賀県経済交流団とともに 2015.8.9~8.15

滋賀県・湖南省の友好締結が30周年を迎えた昨年、同省から300名の訪問団が滋賀を来訪。本年は、滋賀県の経済界や教育界、高校生など合わせて100名以上の訪問団を結成し、湖南省へ向かいました。日吉も同行し、湖南省環境監測所（モニタリングセンター）を表敬訪問し、同省内で着工されたケイラックス生物検定法実験室の建設状況視察とフォローを実施。その他、中国生物検定法の公定法化の進捗状況



など、今後のビジネス展開に関わる重要な情報の収集に努めました。

インターンシップ・国内／海外研修生受け入れ

企業は社会の公器と呼ばれるように、人々に開かれた存在であるべきと日吉は考えます。社会貢献を通じて得た利益を還元し、さらなる発展に寄与するべく、国内外を問わずインターンシップや研修生を積極的に受け入れています。

インドインターンシップ生 研修受け入れ

研究の進展に向けたアドバイスを提供

インドから3名の大学生が5月19日に来日し、7月17日までの約2ヶ月間、日吉で研修を受けました。環境に対する知識や認識を高めてもらうことを目的とした研修を行いました。持参したインドの水のフッ素等の項目や食べ物を分析することで、これまで認識していなかったインドの環境問題を学んでもらいました。

また、排水や廃棄物の処理施設見学や小学生の環境学習会への参加、県内大学生との交流なども行いました。

2006年からスタートし、10年目を迎えたインド国際インターンシッププログラム。これまで受け入れた30人とのリレーションを活用し、国際貢献のみに留まらず、次なるステップとして海外事業展開へと発展させたいと考えています。



国際即戦力育成インターンシップ事業 2015.9.27~12.22

新興国のイノベーター予備軍を受け入れ

日吉では、2012年に始まった HIDA の国際即戦力育成インターンシップに3年にわたって参加。ベトナムとインドへ社員を派遣してきました。本年には、母国の課題解決を目指すイノベーター育成を目的とした、日本の企業による新興国のインターンシップ受け入れ事業が始まります。長年の受け



入れ経験を持つ日吉では、この事業を積極的に支援。母国の社会課題解決に向けた新しい製品・サービス、ビジネスモデルのアイデアを提案できる人材育成に尽力したいと考えています。

インドスピーチコンテスト 2015.10.8~10.16

優勝者来日

1995年より毎年開催している、環境に関するスピーチコンテストの優勝者が来日。日吉で環境意識の向上のため、施設見学や、保全活動に関する研修を行いました。週末は新入社員と滋賀・京都観光を通じ日本文化に触れていただきました。日本語優勝者が来日できない、飛行機の遅延など、度重なるアクシデントを乗り越え、貴重な経験を積んで頂くことができました。さらなるグローバル化に繋がる新たな一歩になればと思います。



中高生インターンシップ受け入れ 2015.7.6~9.18

学習成果を確認し、未来への夢や期待を抱いていただく機会として



日吉には毎年多くの中高生がインターンシップとして訪れます。八幡工業高等学校の女子高生には営業と分析研究課における事務業務全般を体験いただき、彦根工業高等学校電気科の男子生徒とともに守山ポンプ場へ出向いて、水について学んでいただきました。八幡中学校2年生の3名は環境部で受け入れ、ゴミの収集業務・施設見学を体験してもらいました。

「学校で身につけたことが実用でき、生かされたことがうれしかった。」「技術的なことや会社で働くことを体験できた。」「人や環境のために働いている人たちの苦勞を知ることができた。」、などの声をいただきました。この研修が少しでも役立つことを願っています。

インドネシアインターンシップ受け入れ 2015.10.26~10.30

立命館大学留学生の受け入れ

タイやインドネシアの大学との共同研究や留学生の受入で密接な関係を構築している立命館大学。日吉は「グローバルな活躍ができる人材を育成する」という考えに共感し、同大学の博士課程に所属するインドネシア人女性を受け入れることになりました。

日吉が、政府や地域、大学や研究機関と協力していることをはじめ、さまざまな国と地域で環境保全に関する活動を行っていること、また世界の未来をワンストップ・サービスで守ろうとする取り組みについて学んでいただきました。こうした機会が学習や研究の進展に役立てば幸いです。



● 環境技術を身近に感じてもらうため、国内外のインターンシップ、研修生を受け入れています。

海外

- インドインターンシップ
- 国際即戦力育成インターンシップ(HIDA)
- インドネシアインターンシップ(立命館留学生)

国内

- 八幡中学校
- 近江八幡工業高校
- 彦根工業高校
- 長浜バイオ大学
- 滋賀県立大学
- 摂南大学
- 龍谷大学

人材育成



環境計測分野における技術革新の担い手として国内外から注目を集める日吉。人材育成こそ成長の礎ととらえ、様々な取り組みを進めています。現場で活躍する技術者の意向や向上心を反映した実のあるプログラムが特徴です。

認定職業訓練学校立ちあげ 2015.10.31

若い技術者はもちろん、部署を超えて社員が学ぶことで総合的な人材を育成

社員の技術力向上を目的として運営してきた「日吉塾」を改め、『認定職業訓練実施事業所 日吉塾 (Hiyoshi Ecological Academy)』の設立申請を行いました。職業能力開発促進法において企業内訓練学校としての位置づけになります。多くの企業で採用されています。

日々進化する化学分析測定機器類への対応力養成を「組織的」・「継続的」・「効率的」にはかることが目的です。まずは入社1~2年目の社員や研修生を対象とし、化学分析や水処理凝集技術の基礎を学ぶカリキュラムを作成。今後カリキュラムの内容を増やしていき、全ての社員を対象に、多様な分野の技術を積極的に学べる機会として拡充をめざしたいと考えています。



平成27年度 第1期中間管理職研修開催 2015.10.12

創業 60 周年、さらなる社内体制の強化をめざして

企業における「人材育成」が「企業格差」として表面化しつつあり、とくに中間管理職の育成が重視されるようになってきました。日吉でも、成長できる企業の根幹と位置づけ、中間管理職育成の研修に取り組んでいます。



日吉ゼミナールがリニューアル 2015.7.28

各部署選出の運営委員による、さらに自主的な開催をめざして

2011年から32回にわたって行われてきた社内研修会、日吉ゼミナールを刷新しました。これまでの研修実績を継承しつつ、社員間で情報の共有化や連携強化を目的としています。

「環境少年団 (近江八幡市子ども会育成者連合会主催) の環境教育」の予行をはじめ、「WET 試験についての基礎的説明」や「新たな農薬類を対象とした水道水源などの残留実態調査」の概要など自主的な取り組みを継続しています。



新入社員・リクルート



就職に対する意識や、働く喜びも多様な時代。日吉では、ニッチ市場ながら、環境の未来を変えていく技術発信企業として、強い使命感を持った人材を募集。社会貢献と収益還元を高い次元で維持しながら大切に育成しています。

同志社大学 会社説明会 2015.5.20

学生たちとのふれあいを通じて、今後のリクルートや広報活動の足がかりに



同志社大学の関智宏先生とのご縁をもとに、担当の講義「中小企業論」において会社説明を行いました。目的は、日吉の認知度を上げること、若手社員の目線で日吉の魅力を伝え、興味を持ってもらうことです。事業内容に加え、自身の仕事や若手の活躍について話しました。

終了後、受講生にアンケートを行ったところ、就活時期である4回生は会社を選ぶ条件として、とくに「やりがい」、「人との関わり合い」といった意見が多く、仕事の内容を重視する傾向が見られました。

日吉は専門性の高い技術を扱っており、外部からは仕事内容が分かりにくい面もあると考えています。まず、認知度を上げるためには様々な工夫が必要であることを実感する機会となりました。

2016新卒採用状況 2015.9.30

100年企業を背負って立つ若者の育成に向け

売り手市場とフライング選考企業の横行により、例年3桁を記録していたエントリー数が半減。しかし、ニッチながら使命感の高い市場に共感し、日吉に魅力を感じてくれた有志、10名を内定することになりました。若き精鋭たちを、真の“精鋭”として育成していくことが日吉の役割。技術を通じた社会貢献ができる人材として大きく育つことを願っています。



表彰

◎平成27年度「計量功労者知事表彰」受賞

技術部次長、山本 司が平成27年度計量功労者知事表彰を受賞しました。ダイオキシン類の新たな測定方法として、ホタルの発光原理を用いたバイオアッセイ(生物検定)測定によるケイラックスアッセイ法の基礎技術導入やその共同研究などが評価されました。



- ◎滋賀県女性活躍推進 二つ星企業認定
- ◎無事故・無違反100日運動表彰
- ◎滋賀県計量協会関係功労賞 受賞

学会発表・講演



技術の進展には、革新的アイデアの秘匿ではなく、共感を獲得することや理想を共有しようという姿勢が欠かせません。日吉では、社内外での講演会開催をはじめ、学会での発表に取り組むことで、業界全体の技術の歩みを支援しています。

琵琶湖Σ研究センターで社長基調講演 2015.9.25

水道の基礎とこれからの技術 2015.6.8

琵琶湖から世界へ発信する日吉の想いを伝える

関東学院大学鎌田准教授講演会開催



立命館大学琵琶湖Σ研究センター第6回シンポジウムにおいて、当社社長、村田弘司が基調講演を行いました。同センターでは、琵琶湖を拠点に世界の淡水域の環境浄化に貢献するべく、研究者が参加し、環境計測・解析をはじめ、行政・住民・大学等の連携による地域協働政策の立案などを推進。今回は、「琵琶湖からの海外発信」をテーマに、企業・行政・大学が一堂に会し、海外と連携した取り組みについて最新の動向を発信しました。当社村田は、「中小企業の環境サービス産業における海外事業の取組み」について講演し、琵琶湖モデル、国際標準化やトップスタンダード制度などへの課題を提議。「日吉の考え方や想いに感激した。」と多くの参加者の共感を得ることができました。

弊社技術顧問、鎌田准教授に依頼し、「経年化浄水施設における原水水質悪化等に対応する研究～水道の基礎とこれからの技術～」と題した公演会を開催しました。当社が業務として請け負う浄水場の保守・管理・点検作業における重要な課題が安全安心確保と水道水質の向上であり、近年注目される大きなテーマが「高濁度汚染」。非常に有意義な機会として、講演を糧に今後も業務に取り組んでいきたいと考えています。



社会貢献



事業を通じて社会に貢献していくことはもちろん、その成果として得られた収益を、さらに社会のために還元していく。循環こそが社会の活力を支えます。日吉は、まず地域の皆さんにお返しできることを考えていきたいと思えます。

環境少年団 in 沖島 2015.8.8

秋の交通安全運動「交通安全フェア」 2015.9.26

子どもたちと一緒に学び、考え、琵琶湖の現在の生態系を体感しました。

女性新入社員が着ぐるみで奮闘



環境少年団は、近江八幡市子ども会育成者連合会が主催しており、日吉は協賛企業として毎年8月に環境教育を担当しています。企画は新入社員が中心となって行い、これまで多くの参加者や保護者から好評をいただけてきました。

本年は「水の浄化」をテーマに、循環についての座学や、ろ過装置の作成を中心に実施。昼食には沖島の郷土料理を味わい、食後は伝統漁業「地曳網」

に挑戦するなど盛りだくさんの内容でした。残念ながら揚がった魚の大半はブラックバスをはじめとする外来種でしたが、子どもたちだけではなく、新入社員にとっても琵琶湖の現在の生態系を実感できる機会になりました。この学びを活かし、今後の業務・行事の最適化を進めていきたいと考えています。



親子で楽しく遊びながら学ぶことを目的とし、毎年開催されています。

女性新入社員3名が着ぐるみを着て会場を盛り上げ、交通安全運動をPRしました。着ぐるみの中はとて暑く大変でしたが、改めて交通ルールに関して勉強なおす良い機会となりました。



60周年事業が始動 2015.3.1～2018.12.23

2015年3月、日吉は創業60周年を迎えました。3年後の設立記念に至る2018年12月までを60周年イヤーとして、取り巻くすべての皆さんへの「感謝」をコンセプトに、様々な活動を行う予定です。まずは、社員の1票で決まった60周年ロゴをご紹介します。3年間あらゆる場面で私たちと一緒に活躍してもらいます。



- 用紙：琵琶湖の環境保全活動を支援する寄付金付びわ湖環境ペーパー 適切に管理された森林の木材を利用した FSC® 認証用紙
- インキ：大豆油インキを含む植物油インキ
- 印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷
- 製造、廃業に発生する CO₂を滋賀県内の排出削減事業者のクレジットによりカーボンオフセット済
- CO₂排出量：269kg/3,000部